

やまたらけ

YAMADARAKE

SEPTEMBER

No. 82

2017

白樺会の軌跡

奈良田の
伝統を未来に

早川町の最奥地。奈良田集落。数々の伝説や、独自の風習から「秘境」と呼ばれてきた地だ。その風習の一つが民謡である。かつては、手づくりの三味線が各家庭にあり、盆踊りを始めとして、結婚式等の晴れの場、集落での集りにも欠かす事のできないものであった。

その奈良田民謡がこの初夏、新聞に大きくを取り上げられた。「奈良田追分日本民謡8選」。日本フォークダンス連盟が民謡の保存や普及を目的に全国から8曲を選出する「ふるさと民謡」に奈良田民謡を代表する1曲「奈良田追分」が選出されたのだ。6月に静岡県熱海市で行われた同連盟主催の全国日本民謡講習会に指導者として参加し、900人を相手に奈良田追分の披露、指導が行われた。

近年、過疎高齢化の影響から、出演自体が難しくなっていた奈良田民謡。その奈良田民謡にどんな変化が起こったのか。今号では奈良田の伝統文化を後世に伝えるための取り組みを追った。(鹿島健利)

時代を繋ぎ、人を繋ぎ、未来を紡ぐ

奈良田追分

Volume 82
NARADA
OIWAKE



●文＝鹿島健利

100年以上の歴史があるとも言われる奈良田民謡。今から約50年前、当時の若者たちが「白樺会」という文化グループを発足。その事業の1つとして民謡の保存と伝承を掲げ、普及活動を行ってきた。

山梨県内はもとより、県代表、関東代表として伊勢神宮や東京国立劇場等で出演した事もあるそう。奈良田集落の公民館には、壁一面に全国各地での出演の写真が飾られている。

精力的に活動が続けてきた白樺会も、発足メンバーが80歳を過ぎ、会全体に過疎高齢化の影響が影を落とすようになる。それまでお盆の風物詩だった盆踊りが休止状態に入ってしまった。町外に出向く事も、平成22年の甲府市での出演が最後になつてしまった。活動が徐々に縮小していく様子を見て、「50周年（平成22年）を迎えた時にはもう60周年は難しいだろうな」と話す人もいた。

奈良田の伝統文化の火を消すな！ 動き出した白樺会

それでも「奈良田の伝統文化を途絶えさせたくない」そんな想いから、後世に伝えていくための取り組みが始まった。色々と話し合う中で、民謡を切り口に、出身者と協力していく方向性が見え始める。奈良田に

奈良田追分

かつての奈良田では曲物（トウヒの木を薄く削り取った材を円形に曲げつくる容器）づくりが盛んで、山を越えての交易が行われていた。奈良田民謡はその交易とともに北方より伝えられて来た。奈良田追分に「三味を横抱き浅間山眺め、つらいつとめと目に涙」という一節がある。地理的に、長野県にある追分宿を指しており、飯盛女（遊女）が踊っていたものが伝わったもののよう。日本フォークダンス連盟の解説書では、奈良田追分の踊りは「飯盛女が踊っていたままだ、それに近い貴重な形が伝承された」と思われる」と解説されている。



奈良田追分の踊り方



一つ
右手を左手の前に出しながら両手体前で「チョン」と手拍子を行い（一）、すぐに両手顔前で内に巻く（つ）（この動作は最初のみ）。



二つ
右足を左足の横にやや割足に引きながら、両手で軽く両もも打つ（二）、すぐに両手を顔前で内に巻きながら左手を顔前で内に巻きながら左足を右足の横にトンとつく。



奈良田追分の歌詞

一、(※)アドッコイドッコイ
ドッコイシヨット)

サーヨー 追分唄えば
奈良田が恋しヨ

(※)昔なじゆみの 里じゃもの
(里じゃにわとり 山ではかつこう
あの子は歌ひめ)

二、(※)サーヨー 奈良田追分
しょうがいばんばヨ

(※)盆の踊りは 寺の庭
(お盆と正月一緒に来たよな
しゃーせがいつばい)

三、(※)サーヨー お月様のように
しんまんまるとヨ

(※)心をもちたや もたせたや
(あらくに麦刈り そば農(のう)
おやいて 盆には踊らず)

四、(※)サーヨー 桜三月
あやめは五月ヨ

(※)菊は九月が 花盛り
(白根(しらね)のお山じゃ
かのしが鳴いてた
しぐれていろらよ)

五、(※)サーヨー 山の中でも
在所は恋しヨ

(※)花の都も 旅やつらい
(そうずらそばきり
下地が大事だ すましてかきこめ)

伊勢神宮奉納全国民謡大会
出場の様子(昭和43年)。関東
地方代表として白樺会が出
場、奈良田追分が披露され
た。

※奈良田追分には決まった歌
詞がない。右は、昔からよく歌
われているものの中から、今
回の全国民謡講習会出演用
に選んだもの。

た頃は、白樺会に入っていたり、民謡に慣れ
親しんだ出身者が数多くいる。その中でも、
特に若手に関わってもらうことに力を入れ
ていくことになった。

アンケートや、意見交換会を開く中で、着
実に取り組みに賛同、興味を持つてくれる
人が増え、出身者を交えた定期的な交流会
の実施が決定した。第1回の交流会では、約
30名もの出身者が参加。会員一同手応えを
感じるものとなった。それから、回数を重ね
る中で、民謡に触れる機会が無かった出身
者も踊りを習い始めた。これまで関わりが
少なかった出身者にも輪が広がり始めた。
少しづつではあるが、取り組みに熱が帯び
始めていた。

さらに、奈良田集落自体にも追い風が吹
く。若い世代のUターン家族、移住家族が引
つ越して来た。子どもの声が集落に響き渡
り奈良田全体が一気に明るくなった。この2
世帯は白樺会にも入会してくれた。白樺会
にも新しい風が吹き始めていた。

これまでの協力体制を 確かなものに

全国日本民謡講習会への挑戦

そんな折、日本フォークダンス連盟から奈
良田民謡を山梨県代表として全国日本民謡
講習会に出演してもらえないかとの打診が
来た。山梨県内の古くから続く民謡を探す



八つ、九つ
⑥⑦の動作をもう一度くり返し円外
向きとなる。



七つ
左足を右足の横に踏み、⑥の
反対動作を行う。



六つ
右足を左足の横に戻し、反
時計方向むきとなり、両手を
右上にあげて手で振り上げ
内に巻くが、このとき左足を
右足横にトンとつく(顔は手
と反対のほうを見る)。



五つ
右足を左足の前に踏み出
しながら、両手は体前で
"チョン"と手拍子を行う。



四つ
左足を右足の横に割足に引きながら、
両手で軽く両ももを打つ(四)。すぐに
両手を内に巻きながら、右足を左足の
横にトンとつく(つ)。



三つ
左足を右足の前に踏み出し、両手は体
前で"チョン"と手拍子を行い(三)、す
ぐに両手を内に巻く(つ)。

2回目
[円外向き]

【一つ】 右足を後ろに引き、①の動作を行う。
【二つ〜九つ】 ②〜⑧を踊り最後は右回りで円心向きとなる。
以上を繰り返し踊る。

中で奈良田民謡にたどり着いたようだ。曲目は「奈良田追分」。数々の舞台で披露されてきた、奈良田民謡を代表する曲目でだ。

しかし、これまで7年間出演していなかった事、出演に不可欠な出身者の協力をどこまで得られるかなど、なかなか踏ん切りを付けられずにいた。

何度も協議を重ねる中で、「出身者と団結する良い機会になるんじゃないか」「若い人に民謡を真剣に習ってもらう良い機会になるんじゃないか」と出演に踏み切る事になった。

そんな背景もあって、今回選出された出演者は、奈良田在住で昔から出演してきたベテラン、ベテランの出身者、出演が始めての若手出身者、先述のUターン・移住者の母娘といった多彩な顔ぶれ総勢16名となった。

練習にも熱が入る。新人さんたちは、ベテラン勢から教えてもらったり、家に集まって、毎晩のように練習した。初めて触れる人にとっては、本当に難しい奈良田追分。足の運びや、手の振りが独特で、フォークダンス連盟の担当者も「他で見たことが無い民謡」と目を丸める。それでも、努力の甲斐があった、当日までにはベテラン勢も認める踊りまですべて仕上げる事ができた。

久しぶりの大舞台 練習の成果はいかに

いよいよ本番当日。今回の講習会は、各県



本番最初の舞台は400人はいそうな大きな会場で行われた。白樺会としては実に7年ぶりの大舞台。白樺会メンバーも最初は緊張している様子だった。



定期開催されるようになった出身者との交流会の1コマ。三味線を習い始めた若手にも積極的に出番をつくる。



練習会では、昔から奈良田追分を踊ってきたおばあちゃん達が指導に。その身振り手振りのしなやかさは達人の域。



全ての出番を終えての記念撮影。安堵の表情と、達成感に満ちた表情が伺える。



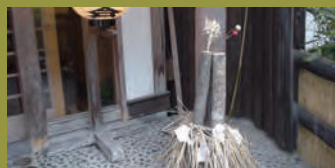
本番前の最後の練習。今回は事前にプロによって収録されたCDで踊る事もあり、いつもと勝手が違う。ベテラン勢の練習にも熱が入る。

民謡以外の奈良田の伝統文化

奈良田には、民謡以外にも古くから伝わる伝統文化がある。その中から、今でも見ることができるものを一部ご紹介。

おぼこ人形

生まれて始めて小正月を迎える子どもに贈られる。女の子には「おぼこ人形」。男の子には「てっぽう」



オホンダレ

小正月に家の前等に飾られる、魔除けのかざり。皮を削り、目鼻口髪など人の顔の形を描き、シメ飾り、花飾りをして立てるのが奈良田の特徴。(他地域では門入道と呼ばれる)。

弓矢

「山の神祭りの日に禁を破って山に入った人が白い弓矢で射られた」と言う言い伝えから、山の神祭りの日に奉納されるようになった。



ミミンコ

安産祈願のお守り。赤ちゃんが生まれる前に奉納される。



白樺会メンバーも参加者にまじりながら踊りを指導した。最初は四苦八苦していた参加者も徐々に踊れるようになり、最後には会場が一体となって奈良田追分を踊った。

の指導員や会員約900人が一同に介し、全国から選出された8つの民謡を習うというもの。熱海のホテルを貸し切り、1泊2日で行われた。

会場に到着すると、大きなホールが、一人で埋め尽くされていた。それまでは冗談を言い合ったり賑やかだった白樺会一行もさすがに緊張の面持ち。それでも、この日に向けて猛特訓を続けて来た甲斐があつてか、音楽が始まると皆自然と体が動いている様子だった。これまで何度もの大舞台をこなして来たベテラン勢は慣れたもので、しなやかな踊りで参加者を魅了した。

一踊り終わると参加者への指導に移る。ここで会場からどよめきが起こる。難しいのだ。民謡に慣れている参加者も四苦八苦。白樺会メンバーも会員の中に割入り、教えながら何

度も繰り返し踊った。次第に緊張もほぐれ、会場が一体に踊れるようになった頃には、何ともいえない高揚感と誇らしい想いがあつたと言う。40分のコマを3回、加えて5分を3回にDVD撮影と盛りだくさんの1泊2日。さすがに疲れはあつたものの、協力して乗り越えられた事、皆の仲が深まった事もあつてか、行きにも増して賑やかな帰路となった。

取り組みがもたらした変化 奈良田の伝統文化を後世に！

この時の様子を奈良田出身で、白樺会発足当時から関わり続けてきた深沢みつ子さんはこう語る。「今回の全国講習会は若い人も一生懸命踊りを習ってくれた。これから白樺会は盛り上がっていくんじゃないか」今回

の出演だけではない。奈良田民謡に欠かせない三味線を習う人が増えたり、若い人たちの間で浴衣を新調しようという話題が上つたり。若い人たちの変化をみつ子さんは目を細めて喜んでた。白樺会会長で、今回の全国講習会出演を先頭に立って進めてきた深沢守さんは「今回の全国講習会出演は、間違いなく交流会の成果。将来に向けての糸口が見えてきた」とこれまでの取り組みを振り返る。

交流会から始まり、全国講習会出演までの全体を見てみると、「民謡」がベテランと若手、在住者と出身者を繋ぐきっかけになったと言つても過言ではない。「奈良田の伝統文化を未来に繋いでいく」それも、もはやただの夢ではなくなりつつある。

しかし、まだ安心はできない。歌い手の養成だ。奈良田民謡には、歌とはやしの2人が

必要で、長いこと務めてきた先代2人が引退してから久しい。交流会で練習は重ねているものの、まだ決まった歌い手はいない状態だ。

また、民謡以外にも奈良田集落には数多くの伝統文化がある。深沢守さんは「おぼこ人形、おしんめ等、数ある伝統文化も、やる機会をつくり、1つでも多く後世に伝えていきたい」と話す。記録に残すだけでなく、人伝いで残していく事を大切にしたいと語る。

白樺会の取り組みはまだ始まったばかり。まずは、白樺会の門戸を出身者や移住者に開いた事で、これまで難しかった大舞台出演という一大事業を実施することができた。この輪をさらに広げていけるか、1つでも多くの伝統文化を若手に伝えていけるか。今後の白樺会の取り組みに注目したい。

やまだらけ編集部がある

「日本上流文化圏研究所」の紹介

上流研は、平成8年に早川町が設立したまちづくりの「中間支援組織」と呼ばれる機関です。平成11年に行政から独立し、平成18年にNPO法人となり現在に至ります。南アルプスの自然環境の中で培われた「人々の暮らしぶり」から未来へのヒントを見出し、「地域の魅力」と捉えて活性化に結びつけていくことが目標です。

まちづくりの主役は町民！上流研ではそう考えています。一人ひとりが地域の良さに気づき、互いのために協力しながら地域の総合力が向上していく、それが理想だと考えています。そのために、

地域資源の掘起こしと発信
住民活動、集落活動のサポート
情報交換と共有、学びの場づくり

といった活動に力を入れてきました。今回ご紹介した奈良田集落の取り組みも、集落の皆さんの熱意に後方支援を重ねてきました。これも「中間支援組織」としての役割だと考えています。

このような活動を通して、早川ならではの暮らしの魅力を若い世代が受け継ぎながら、将来にわたって地域の魅力が継承され、その中で地域を支える人材が育ち続ける山村を、これからも目指していきます。

事務局スタッフの紹介

この8月に事務局は隣の木造建屋にお引越し。ここに7名のスタッフがいます。業務と同時に、日々自分の地域の課題と向き合い、役割も果たしながら活動しています。



集落サポートの取り組み

早川町は人口約1,100人、高齢化率約50%と、全国でも有数の過疎高齢化した自治体です。これまで行われてきた行事や共同作業などが、多くの集落でまもなくなくなってきました。



そうした状況から、上流研では早川町役場から委託を受け、住民による集落の課題解決や活性化に向けた取り組みをサポートする「集落の維持活性化に向けた総合的サポート事業」を実施してきました。平成24年から3年間奈良田集落にも関り、本文に出てきた白樺会の話し合いをコーディネートしたり、出身者の意見収集や働きかけ、意見交換会の企画・運営等を行いました。

今後移住事業とも連携し、1つでも多く住み継がれる集落を増やすべく、事業に取り組んでいます。

会員募集

我々の活動に共感してくださる会員の方々を募集しています。詳細は裏表紙を。

**10,11月の
第3土曜 「早川ジビエ」を味わう！
鹿丸焼きパーティー**

早川町オートキャンプ場にて、参加無料の「鹿の丸焼き」イベントを開催します！

参加資格は、当日キャンプ場をご利用いただくこと。ぜひこの機会に、早川町で捕れたジビエを食べてみませんか。雄大な自然と早川の流れるを感じるキャンプ場にて、皆様のお越しをお待ちしております。※要予約

日時：2017年10月、11月の第3土曜日
14時より（雨天決行）

場所：早川町オートキャンプ場
山梨県南巨摩郡早川町保1751



問い合わせ・申し込み先

早川町オートキャンプ場

【電話】0556-20-5055

【HP】<https://hayakawa-ac.com/>

**10月
21~22日 南アルプス広河原
紅葉の森ハイキングツアー**

ユネスコエコパークに登録された南アルプス。広河原は、その南アルプス登山の玄関口です。カツラなどの大木や、様々な木々の森が広がり、秋になると森が紅葉で染まります。そんな広河原を始め、紅葉の森を散策しましょう！

日程：2017年10月21日（土）
～22日（日）1泊2日

対象：大人（中学生以上）

定員：15名

参加費：15,000円（1泊3食付・税込）

※別途、登山バス代

締切：2017年10月18日（水）

先着・定員になり次第締切



問い合わせ・申し込み先

南アルプス生態邑/ヘルシー美里

【電話】0556-48-2621 【FAX】0556-48-2622

【HP】<http://www.hayakawa-eco.com/>

【E-mail】info@hayakawa-eco.com

**10月11日～ ナイトハイクプラン
11月17日 ムササビウォッチング**

空飛ぶ不思議な生きもの、ムササビに会いに行こう！夜行性の彼らの1日の始まり、夜の森へ出かける瞬間を観察してみましょう。目の前で次々に起こるムササビの行動から目が離せません！

日程：2017年10月11日（水）～
11月17日（金）中の1泊2日

対象：5歳以上

参加費：大人8,000円、子ども7,300円

1泊2食付・税込

定員：毎日16名

締切：各宿泊日の3日前まで



問い合わせ・申し込み先

南アルプス生態邑/ヘルシー美里

【電話】0556-48-2621 【FAX】0556-48-2622

【HP】<http://www.hayakawa-eco.com/>

【E-mail】info@hayakawa-eco.com

早川町観光協会のHPもCheck!

「奥山梨はやかわ」<http://hayakawakankou.daa.jp>

2017
秋

奥山の秋を楽しもう！ 早川町観光イベントニュース！

7月30日～

高橋穂足 個展

10月30日

「高橋生物図鑑」第1輯

作者自ら考えだした空想動物の立体作品を数十点展示。全身に花卉のような鱗をまとったセンザンコウ、まるでスイカのようなブタ、美しい鱗をもったツチノコなど、ユーモラスで無邪気な生き物たちが奏でる世界をお楽しみください。

会期：7月30日(日)～10月30日(月)

水曜定休、10月21、22日臨時休業

会場：宿の駅 清水屋

山梨県南巨摩郡早川町赤沢193

※駐車場は赤沢公民館

清水屋から50mほどの場所

営業時間：9：00～16：00

(喫茶ラストオーダー15：30)



問い合わせ・申し込み先

宿の駅 清水屋

【電話】0556-45-3232

9月14日～25日は『山翡翠クラブ野鳥写真展』も同時開催されます！

10月29日

開催！

いいもの、うまいものが大集合！

秋の早川大トラねこ市

西山農園湯島の湯にて「秋の大トラねこ市」を開催します。早川町の紅葉美を眺めながら、西山までドライブをして、トラねこ市でお買い物！！町内の観光物産推奨品や農産物、クラフトを始め、様々なお店が出店します。また出店者も大募集中です！秋の味覚に舌鼓をうちながら、早川ならではの豊かさを感じてみてください。

場所：西山農園湯島の湯

時間：午前9時～午後1時

詳細については、下記URLにてご確認ください。

<http://hayakawakankou.daa.jp>



問い合わせ・申し込み先

早川町観光協会

【住所】山梨県南巨摩郡早川町袋430

【電話】0556-48-8633

一緒に市を盛り上げてくれる出店者も大募集中！

11月12日

開催！

一年の締めくくりのイベント

奥山梨はやかわ紅葉まつり (仮称)

早川町を囲む南アルプスの雄大な山々が色づく秋、町のビッグイベントの開催です！町内の秋の味覚や農産物、特産品が一同に会します。今年からそばまつりから名前と場所を変え、装いも新たにリニューアルして開催します。

早川渓谷の紅葉美をはじめ、秋の早川町を満喫しに是非出かけ下さい。盛り沢山なプログラムでお待ちしております。

日時：2017年11月12日(日) 9時～

場所：早川町民スポーツ広場



問い合わせ・申し込み先

早川町振興課振興担当

【電話】0556-45-2516



若者と三味線

(昭和30年頃、西山地区奈良田集落にて撮影)



三味線を習う奈良田の若者たち。まだ習い出しの頃、NHKが若者が三味線を弾く様子取材するために来た際に撮影された写真。

その頃、三味線を弾くのはお年寄りばかりであったため、「私たちも弾けるようになろう」と、若い人たちが5人集まって習い始めた。左上にいる男性は役場に勤めていて、放送局などへ地域の情報を積極的に提供していた。若者が三味線を習い始めたときも早速情報を伝え、そのおかげでNHKが奈良田に来たそう。

一番右に写っている女性の母親に三味線の先生になってもらった。その方は三味線が上手と評判だった。NHKから依頼を受け、甲府放送局まで収録に行き、彼女の三味線がラジオ放送されたこともあったそう。練習は不定期で、

皆で声を掛け合って集まった。三味線を持っていなかった人は、村の人や友達から借りて練習したという。奈良田追分、八幡、エンサーの奈良田独自の民謡の他、東京音頭、佐渡おけさなども弾いた。若者同士で誰かのお宅に集まって、ご飯を食べたりお酒を飲んだりする「夜遊び」で、三味線を弾いて楽しむこともあった。冬の畑仕事やおかいこ(養蚕)がなく暇なときは毎晩のように集まって「夜遊び」をしていた。その中からカップルが誕生する事もあったそう。

次号予告！(12月上旬お届け)

No.83「おやじの道具」

早川の人々が持っている道具をよく見ると、使い勝手よく 良したり、見た目をお洒落にしたり、同じ道具でも人ごとに様々な 良が加えられていることに気づきます。次号では、この道具を切り口に、早川に根付く「あるもので作る」という文化・精神を紹介します。

読者の声

- こちらでも集落や施設の人たちが、村道の草刈りを済ませたところです。移住して来たり、村外から通勤している人にとって、村の人たちと触れ合ういい機会となっています。(奈良県川上村Mさん)
- 「結」「道普請」など、子どもの頃は相互扶助が当たり前でした。今ではその担い手の多くは高齢者。行政の力も借りながら、楽しく続けることができると良いですね。(身延町Yさん)

編集部:今回ご紹介した葉袋集落の他にも、最近はボランティアなど外部の力を積極的に借りて村仕事を維持する集落が増えて来ています。参加する方も、初めての体験がたくさんで、村の人たちと一緒に汗を流す爽快感も含め、非常に楽しいようですね。

そのうち「結ガール」なんて言葉が流行るんじゃないでしょうかね。そんな妄想はさておき、そろそろ家の周りの草刈りをしなきゃなあ…。

やまだらけ定期購読のお願い

「やまだらけ」では、今後も「山の暮らしの価値」と、それを後世に守り伝える人々の活動を応援して参ります。

やまだらけは、広告料と会員の皆様の会費で成り立っています。会員の皆様には、やまだらけを毎月お届けいたします。会員として、この取り組みを支えてください。

【年会費】正会員:10,000円 賛助会員:3,000円

【振込先】ゆうちょ銀行 ○二九店
当座 0095644

【名義人】特定非営利活動法人
日本上流文化圏研究所

奈良田の皆が楽しむ場には欠かせなかった奈良田追分。実は、長い歴史の中で、変化していたり、人によってアレンジがされていたり、完全に固定されていないのも特徴の1つです。私も白樺会の一員として、奈良田追分を時代に合わせて変化させていながら、皆が楽しめる場を引き継いでいけたらと思います。白樺会は60年、70年、その先も続いていく。今はそんな予感がしています。(鹿島健利)

山を覗けば宝の山
やまだらけ

発行元／NPO法人日本上流文化圏研究所
住所／山梨県南巨摩郡早川町葉袋430 〒409-2727
電話／0556-45-2160 ファクシミリ／0556-45-2268
http://www.joryuken.net/